科目名			担当教員	
教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）			中村　恵子	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FE3548	2	1	RorSR（講義）	２年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　B	

※2019 年度から、2017 年度以前・2018 年度以降に入学した方どちらも履修登録できる科目になりました。
※2017 年度以前に入学した方で、「特講・福祉心理学４（スクール・カウンセリング）」の 2017・2018 年度単位修得者（中村恵子先生の講義を受講した方）は、本科目のスクーリングは受講できません（履修方法：R でのみ単位修得可）

科目の概要

■科目の内容

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム支援が求められる時代になりました。本科目では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例を用いて、学校不適応によって生じる問題とその適応支援の方法論を学びます。レポート学習では、教科書を読んで適応支援の方法と課題についての学びを深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

教育委員会の内側でカウンセラーを担っていた実務経験をいかし、教育臨床での問題について、子ども、家庭、学校環境および支援環境の多面的観点から読み解きます。授業では、蓄積された事例を活用し、実践的な問題理解と解決方法を学びます。

■到達目標

１）教育現場において生じる問題を説明できる。
２）教育現場において生じる問題の背景を説明できる。
３）学校適応条件を説明できる
４）学校不適応の子ども支援の方法を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

中村恵子編著『学校カウンセリング―問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション　第３版』ナカニシヤ出版、2021 年

（最近の教科書変更時期）2021 年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

中村恵子著『シリーズ学校心理学プラクティス１　別室登校法：学校と適応指導教室での不登校支援と集団社会化療法』ナカニシヤ出版、2022 年

中村恵子著『シリーズ学校心理学プラクティス２　認知行動療法のストラテジー：行動修正法・行動形成法・認知再構成法・おまじない法』ナカニシヤ出版、2023 年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	教育臨床に有効な集団支援技法	対人関係ゲームの理論と演習
2	学校教育システムの実情と課題（1）	不登校の急増と背景
3	学校教育システムの実情と課題（2）	教師のバーンアウト
4	学校教育システムの実情と課題（3）	学級崩壊
5	発達障害の理解と課題（1）	知的水準、学習障害
6	発達障害の理解と課題（2）	自閉スペクトラム症、ADHD
7	学校不適応への支援方法	学習障害と二次障害
8	集団社会化療法の理論と実践	集団社会化と学校適応
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

・授業では事例を提示し、グループでのディスカッションを中心に読み解きます。

■スクーリング　評価基準

・授業への参加態度 30%＋スクーリング試験 70%（論述式）

・とくに学校適応条件についての理解を問います（教科書・配付資料持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の 1 章～3 章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	学校カウンセリングの役割	p.1～3　学校カウンセリングの目的は子どもの学校適応上の問題解決にある	個別支援と集団支援の両方が求められる
2	チームでの協働支援	p.3～6　チームで解決をはかる児童生徒支援システム	共通理解が必要な専門用語を学ぶ
3	教師とスクールカウンセラーのコラボレーション	p.6～10　集団支援の専門家＝教師 個別支援の専門家＝カウンセラー	教師とスクールカウンセラーの専門性を生かす
4	校内支援体制と教育コラボレーション	p.10～13　児童生徒支援システム	システム理論
5	教育コラボレーションによる再登校支援⑴	p.13～18　チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
6	学校適応の条件	p.37～38　学校生活を支える適応条件	学校環境と家庭環境
7	学校適応のための発達課題	p.38～42　学齢期までの発達課題	対人関係の発達
8	価値のトライアングルと学校適応	p.42～43　価値観のバランス	価値観の偏り
9	学校環境への適応システム	p.43～47　学校環境と家庭環境のはざまでバランスをとろうとする子ども	個人と環境の相互影響
10	学校環境と問題解決システム	p.47～51　不登校生徒への再登校支援	学校適応条件
11	学校不適応をつくる問題システム	p.51～52　問題システムの構成要因	子ども・学校環境・家庭環境の相互影響
12	問題解決フォーミュレーション	p.52～63　学校環境と家庭環境それぞれのフォーミュレーション	当事者支援と支援者支援
13	教育コラボレーションの意義	p.65～66　コラボレーションの極意	教育コラボレーション
14	教育コラボレーションによる再登校支援⑵	p.67～71　チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
15	教育コラボレーションの役割と効果	p.71～72　チーム支援の条件	チーム支援の役割

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	教科書p.13～18 の「級友から孤立して不登校に陥った A さん」の事例から、チーム支援に必要な条件を論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

書き方について

レポートは、以下の順序で最初に結論を述べてください。

１）結論　チーム支援に必要な条件として以下のことがあげられる（箇条書き）

２）本論　箇条書き条件の説明

３）総括　これらの条件を用いることの意義と効果

４）事例についての感想

１）～3）までが小論文形式のレポートの書き方です。

１）論文の価値は、論点の正確さと論理の明瞭さにおかれます。まずは最初に結論をコンパクトにまとめましょう。

２）次に、本文では、その条件とはどのような内容なのか、なぜそれが必要と考えたのか、そこにはどのような意味があるのかを説明してください。また、もしそれを用いなかった場合は、どのようなことになるのか、用いた場合はどのような効果が期待できるのかを説明し、論拠を示してください。この内容の豊かさが論文の質的価値をつくります。

３）そして、最後に意味と役割について説明して総括してください。

４）レポート本文では、自分の考えや感想（主観）を排除して、テキストの事例以外の章を引用しながら客観的に書いてください。感想は、逆に自分の考えや感想や体験を自由に語ってください。このコントラストが大切です。

レポートを書こうとしてもやる気がわかないとき

空腹のときは、脳に栄養がいきわたらないせいかやる気が起きません。しかし、逆に満腹のときもなぜかやる気が起きません。それでも、脳に栄養を与えるとやる気がわくような気になることも稀にあります。筆者の経験では、チョコレートはないとやる気がわきません。芋けんぴとナッツ類も有効です。それに睡魔との闘いになるので、コーヒーも不可欠です。そして、ここまでやったら寝ても良いというゴールの設定もないとイヤになるので、ゴールまでできたら苦悶の心身をアルコールで潤し、よく寝て明日の苦戦に備えましょう。

皆様の善戦を心からお祈りしております。

科目修了試験

■評価基準

- 評価の観点は、理解の正確さです。
- 教科書や解説文を良く読んで対策してください。